

# Join!

長門湯本観光まちづくり  
みんなの力で湯ノバージョン

成長戦略推進課 Tel 23-1234  
長門湯本みらいプロジェクトHP  
<http://yumoto-mirai.jp/>

## 懐かしの湯本フォト



写真提供：湯本まちかど資料館 吉富尊一館長

## 地域に刻まれてきた温泉の歴史

〜今、変わろうとしている恩湯〜

温泉街の再生に向けて、長門湯本温泉では観光まちづくりのプロジェクトが進んでいます。その中で、地域を中心となってきた恩湯も、まさに生まれ変わるうとしていきます。

長門湯本温泉は、住吉大明神の神託により大寧寺住職によって発見・開湯され、約600年の歴史を刻んできました。特に恩湯は、大衆の湯として地域で親しまれてきました。

その姿は時代や周囲の風景とともに変化しています。ネオン管が印象的な赤瓦屋根の恩湯も、過去には洋館のような建物だったこともあります。地域に

愛されながら少しずつ形を変えていった恩湯は、近年では建物が老朽化したことから、湯本温泉街の再生の一環として、建て替えることになりました。

建て替えると同時に、建物の下にあった泉源の状態も調査しました。泉源に影響を与えないよう慎重に解体して調査すると、岩盤から温泉が湧き出ているという全国的にも珍しい泉源だということがわかりました。

今、貴重な泉源を含めて、この歴史ある恩湯を守っていくために、地元の若手が立ち上がった。新しい恩湯を作る準備を進めています。

地域の資源は昔からずっとあるのが当たり前を感じるかもしれませんが、何もしいままだと取り返しのつかないことになってしまいます。地域の宝を大切に、後世に伝えていくこと・守っていくとする取組はどの地域でも大切なことです。



▲明治後期の恩湯（かやぶきの左隣の建物）



▲昭和初期の恩湯



▲昭和30年代の恩湯

## まちづくりのキーパーソン



《略歴》

伊藤就一さん（右）◆1973年生まれ。長門湯守株式会社代表取締役。趣味・特技：おやじギャグ、鼻を動かす

大谷和弘さん（左）◆1979年生まれ。長門湯守株式会社代表取締役。趣味・特技：旅と読書

生活者に愛される恩湯を目指して

## 長門湯守株式会社

長門湯本温泉観光まちづくり計画の中で建て替えが決まった「恩湯」。その施設整備・運営事業を担うのが、市内の旅館や飲食店経営者で組織する長門湯守株式会社です。現在、平成31年11月の開業を目標に設計などの協議が進められています。

「湯本温泉のシンボルである恩湯を地元の手で守りたかった」と大谷代表。地元の有志に声をかけ、恩湯等施設整備・運営事業の公募型プロポーザルに参加しました。

今年2月に開催された公開ヒアリング・審査会を経て優先交渉者として決定し、「大事な恩

湯を預かることになり、身が引き締まる思いだった」と伊藤代表。「右盤から温泉が湧き出る自然湧出の魅力を最大限に生かした施設整備や地域食材を使った飲食物販、川床や広場を活用したサービスなど、利用者に満足していただける施設を目指したい」と話します。

「恩湯は地域の環境資本であり、素晴らしい温泉を守ることが、次代を継ぐ私たちの責務と考えています。湯本温泉だからこそ創出できるものを実現し、生活者に未永く愛される恩湯を目指したい」と意気込みを語ってくれました。